

【実践報告】

保育実習および保育実習指導の報告

広島文教女子大学人間科学部

人間福祉学科 教授 木 村 敦 子

初等教育学科 教授 杉 山 浩 之

初等教育学科 教授 善 本 桂 子

1 はじめに

国家資格「保育士」の取得を希望する保育士課程履修学生を対象とした保育実習は、保育実習ⅠⅡⅢとして行われる。本実習は保育士としての修得すべき知識・技術に関する内容が中心となる児童福祉施設で行うものであり、その目的は、保育士としての使命感を自覚し、職務内容について理解を深め、保育（養護と教育）に関する実践的能力を育成することである。

さらに実習の事前事後指導の科目として「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導ⅠB」「保育実習指導Ⅱ・Ⅲ」が開講されている。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
保育実習指導Ⅰ ^{注)}	2年後期	必修科目であり、保育実習の目的や意義、児童福祉施設の理解、保育士の仕事と役割の理解など基礎的な学修を行う。
保育実習指導ⅠB	3年前期	ⅠAに続いて、保育実習における実践、保育実習の目標と課題、実習の留意点（日誌、個人情報、倫理、健康管理など）を学修する。
保育実習Ⅰ	3年前期 8月～9月	必修科目であり、保育所及びその他児童福祉施設において各12日間の実習を行う。この間、大学教員による巡回指導が行われる。
保育実習指導ⅡⅢ	3年後期	選択科目のⅡ（保育所）またはⅢ（施設）の保育実習に向けて、Ⅰの振り返りから新たな目標と課題、指導案作成などを学修する。
保育実習ⅡⅢ	3年後期 2月～3月	保育所又はその他の児童福祉施設において各12日間の実習を行う。この間、大学教員による巡回指導が行われる。

注) カリキュラムの改正に伴い、平成26年度入学生より、「保育実習指導Ⅰ」となる。

3 実施概要

2年後期「保育実習指導Ⅰ」（演習2単位）では、テキスト、ビデオ教材を中心に15回授業を行う。毎授業後に学習記録を作成し、教員が書き方や内容に関して一言コメントを返している。保育所以外の施設の実習希望調査により実習先を決定する。事前事後学習としては、実習の目標と課題の作成（第

1回目)、名札作成、教材演習、家事の実践、内諾訪問などがある。

3年前期「保育実習指導ⅠB」(演習1単位)では、2年後期「保育実習ⅠA」を引きついで、実習報告会への参加、施設および保育所の理解、目標と課題の仕上げ、実習報告会、実習の留意点(勤務時間・日数、出勤簿、欠席等の届け出、緊急時の連絡方法、感染症予防接種、実習日誌の提出返却、日誌、個人情報、倫理、健康管理など)などを通して実習への準備をしたり心構えを身につけたりする。事前事後学修としては、実習報告会への参加レポート作成、実習の目標と課題の作成(第2回)、事前訪問などがある。

保育実習Ⅰ(実習2単位)では、前年度に決定している保育所及び施設において実習を行う。巡回教員は1回必ず訪問し、学生指導を行い、報告書を提出する。学生は、実習を振り返っての実習報告書を作成し、グループ討議や報告会に備える。

保育実習指導Ⅱ・Ⅲ(演習各1単位)では、実習報告会での討議・発表、実習Ⅱ・Ⅲに向けての目標と課題の作成、実習Ⅰの成績開示と自己評価、指導案の作成、実行委員による実習報告会の計画、実習の留意点などを学修する。事前事後学修としては、報告会参加レポート、指導案作成、事前訪問などがある。

保育実習Ⅱ・Ⅲ(実習2単位)では、前年度に決定している保育所または施設において実習を行う。巡回教員は1回必ず訪問し、学生指導を行い、報告書を提出する。学生は、実習を振り返っての実習報告書を作成し、グループ討議や報告会に備える。最後の実習報告会となるが、これは4年前期に行われる。

4 成果と課題

保育実習指導Ⅰでは、実習に向けてのイメージや心構えを持つことが重要である。そのために、保育現場のビデオ教材を活用し、保育所や施設の一日、児童の様子、保育士の関わりなど、実際場面を視聴する時間を増やしている。より具体的なイメージをもって実習に臨むためには、保育所・施設に勤務する保育士から、現場の状況を聞いたり、実習生として求められる姿勢などを聞いたりする機会をもつなど、さらに工夫が必要であろう。実習先の決定については、希望する実習施設の概要、役割、児童・利用者の状況などを、調べ、情報収集をした上で、希望調査表を作成するようにしている。このことにより、実習に対する目標がより明確になってくるものと思われる。学習記録作成では、文章の書き方についてのコメントにより日誌への心構えへの喚起をするが、個人差への対応は学生の主体性に頼っている面がある。欠席の場合は、補講を必ず実施している。

保育実習指導ⅠBでは、実習報告会への参加により、実習のイメージや心構え、さらには施設および保育所の理解から各自の目標と課題へと繋がる学修を仕組んでいる。実習の留意点では、出勤簿の記入、検便の提出期限、個人情報の管理などについて具体的な説明を心がけ、指導を徹底している。実習Ⅰの報告会に向けては、教員主導で行い、Ⅱ・Ⅲは学生が主体的に計画すること予め伝えている。

保育実習Ⅰでは、実習の開始や終了、感染症や施設の事情による実習変更などの連絡を行えるように、メールおよび実習用携帯電話での対応を工夫している。

保育実習指導Ⅱ・Ⅲでは、グループ別の討議と成果の発表を行うが、内容的には学生が関わった保育の事例を中心に検討しあい、一つを選んで詳細な報告を全体会で行っている。実習Ⅰの成績開示と自己評価では、個別に教員と学生の一対一での面談を行い、学生の自己評価と実習評価とを照らし合わせての振り返りと、次の実習に向けての課題を確認する。ここでは十分な振り返りを行い、失敗経験のケアや誤解の訂正、将来に向けての心構えや就職指導なども重要となってくる。実習の目標と課題の作成では、保育実習Ⅰよりも一段とレベルアップした内容に仕上げられるように指導しているが、

事前事後学修と個別指導における工夫が必要である。

保育実習Ⅱ・Ⅲでは、目標と課題に基づいて保育所または施設において実習を行う。保育実習では、設定保育の実習や全日実習なども経験する。巡回指導では、実習の様子や課題など学生の振り返りを行い、相談と援助が出来るように、十分な時間と事前の巡回心得に一層の工夫が必要である。

最後に、本学の保育実習は、初等教育学科幼児教育コースおよび人間福祉学科社会福祉コースで行われており、両学科の教育方針や教育課程との関わりから見ると、それぞれの学科の学生は保育士資格の取得に合わせて、さらに別の教育・福祉専門職の資格を履修している。そのための実習は、対人援助職ということから保育実習との共通点も多々ある。学生指導においては、このもう一つの専門職の特徴との共通点や相違点を学生が認識し、相補的に実践的指導力が養成されるような実習指導の工夫についても検討を重ねていくことが必要であろう。(以上)